



おぢや未来ビジョン

第六次小千谷市総合計画

令和8（2026）年度 - 令和17（2035）年度

小千谷市



小千谷市民のねがい

美しい山河にめぐまれ、深い雪におおわれるこの風土に生きた先人は、やさしく忍耐強い気風と、おおらかな雪国の文化と、独創的な産業を育ててきました。これをうけつぐわたくしたち市民は、次の目標をかげ、さらに光ある明日をめざして進みます。

みんなで「わがまち小千谷」を育てましょう。

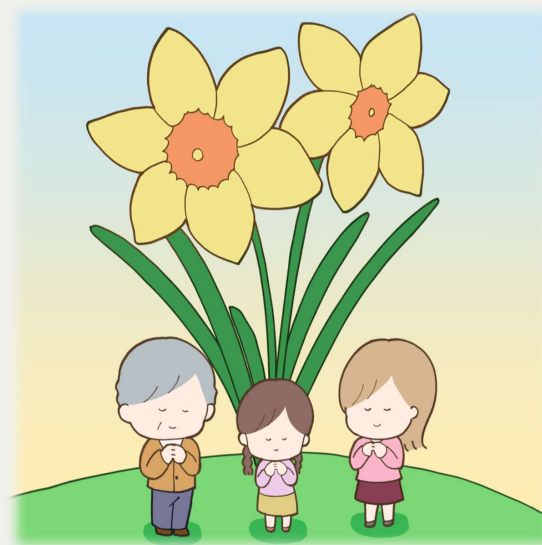
雪にくじけぬ、たくましいまちに。

いたわりと真心のあふれるまちに。

健康で、文化の香り豊かなまちに。

はたらく喜びにみちた産業のまちに。

（昭和五十五年三月一日 制定）



本市は、昭和 55 年 3 月に市民憲章として「小千谷市民のねがい」を制定しました。
おぢや未来ビジョンは、この市民憲章の想いを受け継ぎながら策定しています。

■ おぢや未来ビジョン（第六次小千谷市総合計画）とは



小千谷市って今、どんなまちづくりを進めているんですか？

小千谷市では平成28（2016）年度から、「～ひと・技・自然～ 暮らして実感 地域の宝が輝くまち おぢや」を目指すまちの姿とする「第五次小千谷市総合計画」に基づいて、子育て支援や医療・福祉、地域防災、観光振興など、幅広い分野でまちづくりを進めてきました。



そうなんです。その計画は、いつまで続いているんですか？

第五次計画は令和7（2025）年度で一区切りを迎えました。そこで、これからの10年間を見据えて、新たに「おぢや未来ビジョン」というまちづくりの計画をつくりました。



「おぢや未来ビジョン」にはどんなことが書かれているんですか？

簡単に言うと、これからの小千谷が目指すまちの姿と、その実現に向けて取り組む具体的な内容を分かりやすくまとめた計画です。また、人口減少や人口構成の変化に対応していくための考え方も示しています。この計画には、大きく分けて2つの役割があります。

■ まちづくりの考え方を共有する計画

これからの小千谷がどんなまちを目指し、どのような想いでまちづくりを進めていくのかを、市民や企業、団体、行政みんなで共有するための計画

■ 行財政運営の指針

人口減少などの課題に向き合いながら、行政が計画的かつ効果的に施策を進めていくための指針



ということは、教育や防災、産業やお祭りなども、全部この計画に関わっているんですね。

そのとおりです！小千谷市のさまざまな施策は全て、「おぢや未来ビジョン」で掲げた目指すまちの姿の実現に向けて進められています。この計画は、市の最上位計画として位置付けられる、とても大事な計画です。



■ はじめに

未来から考える小千谷のまちづくり

— バックカスティングという考え方 —

この計画ではまず、

「20年後、30年後、小千谷をどんなまちにしたいか」という、

未来のまちの姿を思い描きました。

その姿とは、

誰もが笑顔で希望を持ち、安心して暮らし続けられる、持続可能なまちです。

そして、その姿を実現するために、

この計画の期間である令和8（2026）年から令和17（2035）年までの10年間で、どんなことを行うべきかを逆算して考えました。

このように、

“過去・現在のまちの様子から未来の姿を考える”のではなく、

“なりたい未来の姿から今やるべきことを決める”考え方を

バックカスティングといいます。

この考え方を取り入れることで、

◆小千谷が目指すまちの姿がはっきりする

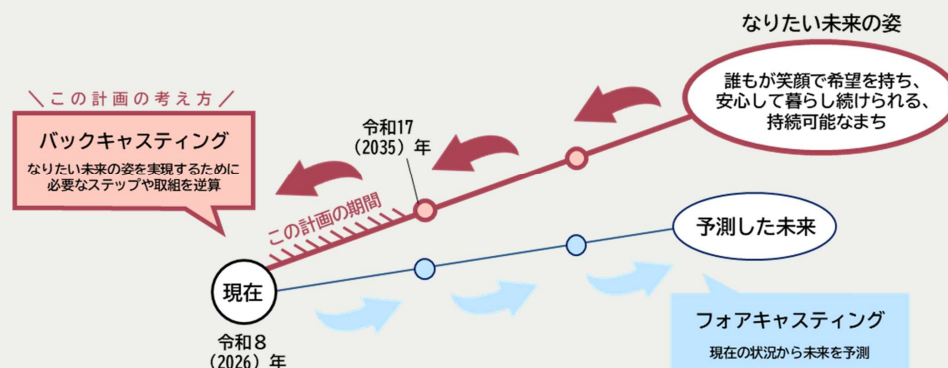
◆今やるべきことや途中経過が分かりやすい

◆みなさんの一歩が、未来へどのようにつながるか見える

といった良いことがあります。

未来は、ただ予測するものではありません。

みんなで考え、みんなでつくり、みんなで実現させるものなのです。



■ 計画の構成

おぢや未来ビジョン

計画の期間：令和8（2026）年度から令和17（2035）年度までの10年間

Part 1

おぢやの想い (p. 5-15)

◇基本構想（長期的な市政運営の基本方針）

令和17（2035）年に小千谷が目指すまちの姿や、これを実現するための基本的な考え方や重点テーマを、4つのライフステージごとに示しています。

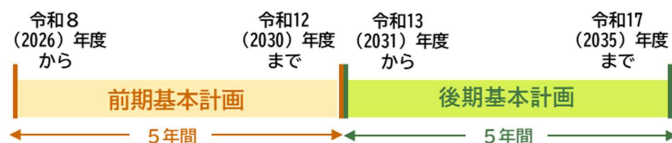


Part 2

人口減少克服プラン (p. 〇-〇)

◇基本計画

「おぢやの想い」に示された4つのライフステージごとの基本的な考え方や重点テーマに基づく、具体的な施策を体系的にまとめています。



Part 3

資料編 (p. 〇-〇)

この計画を策定するにあたり、基礎データとなった将来人口の推計結果や市民意識調査の結果、計画の策定体制などの資料を掲載しています。

アクションプラン

◇実施計画

「人口減少克服プラン」で取り組む施策を具体的に実行するための短期的な計画です。事業ごとに向こう3年間のアクションプランを毎年度策定します。

Part 1

おぢやの想い

〈基本構想〉



■ これからの 10 年間、小千谷が目指すまちの姿

笑顔と希望を育む「おぢやの輪」を みんなで未来へつなぐまち

「おぢやの輪」とは

「おぢやの輪」とは、小千谷との関わりの中で生まれる、

- ・世代や立場、場所を越えて想いを共有する“人と人とのつながりの輪”
- ・暮らしや仕事、活動を通して生まれる“人とまちとのつながりの輪”
- ・自然や文化、歴史に触れることで深まる“人と地域の宝とのつながりの輪”

これらの“つながりの輪”のことをいいます。

輪がもたらす好循環

「おぢやの輪」は、“つながりの輪”が何重にも重なり合うことで、より強く大きいものになります。

その結果、新たな交流やにぎわいが生まれるとともに、地域経済が活性化することで、将来にわたり公共サービスを維持できる環境づくりにつながります。

さらには、暮らしの安心感が高まり、まちへの愛着が深まることで、笑顔と希望がまち全体にあふれ、新しい“つながりの輪”が生まれていきます。

これが、「おぢやの輪」の発展がもたらす好循環です。

みんなで未来へつなぐまち

市民、企業、団体がそれぞれの立場から、「おぢやの輪」を少しずつ強く、大きくしていくために、行政としては、全ての人が無理のない形でまちづくりに関わることができる仕組みづくりや環境づくりに取り組んでいきます。

小千谷が、20年後、30年後も、誰もが笑顔で希望を持ち、安心して暮らし続けられる、持続可能なまちであるように、互いを尊重し支え合いながら、できることから一歩を踏み出し、みんなで「おぢやの輪」を未来へつないでいくことを目指します。

■地域産業の魅力を高め、担い手を育てることで、持続的な経済の発展を図ります。

■農業・商工業など地元産業の活性化に取り組み、企業誘致や新しいビジネスへの挑戦の後押しをすることで、多様な働く場を生み出します。

■やりがいを持って安定して働き続けられる雇用環境を整え、みんなにとって魅力あるまちを目指します。



■妊娠・出産から子育て・教育まで、切れ目のないサポートで寄り添います。

■若い世代の多様な価値観を尊重しながら、仕事と子育てを両立しやすい環境を整えます。

■こどもたちの成長を地域全体で見守り、一人ひとりが夢や目標に向かってのびのび育つまちを目指します。

■誰もが安心して快適に暮らせるよう、道路や除雪、防災などの都市基盤を整え、災害に強く利便性の高いまちをつくります。

■医療や福祉の支援体制を充実させ、健康に暮らせる生活環境を整備します。

■お互いを尊重しながら、地域の中で自分らしく安心して暮らせるまちを目指します。



■小千谷の豊かな自然や特産品、歴史ある文化をみんなで守り、その魅力をさらに磨き上げる取組を支援します。

■地域資源を活かした体験や交流の機会を広げ、魅力を効果的に発信することで、関係人口の創出を図ります。

■環境保全活動や文化の継承を支援し、自然と文化を将来につなぐ持続可能なまちを目指します。

■ 4つのライフステージごとにみる「おぢやの輪」

私たちの生活環境や必要とする支援は、人生の段階や場面によって変化します。そのため本計画では、「こそだて」「はたらく」「くらす」「みがく・つなぐ」という4つのライフステージごとに目標や取組を整理することで、人生の段階や場面に合わせて必要な情報を見つけやすくし、まちづくりをより身近に感じられるようにしています。

ステージ 1

安心して子どもを産み育てられるまちへ！
「こそだて」のステージ

■ 基本的な考え方

- ・妊娠・出産から子育て・教育まで、切れ目のないサポートで寄り添います。
- ・若い世代の多様な価値観を尊重しながら、仕事と子育てを両立しやすい環境を整えます。
- ・子どもたちの成長を地域全体で見守り、一人ひとりが夢や目標に向かってのびのび育つまちを目指します。

■ 将来の姿

未来に希望を持ちながら、新しい家族が誕生している



地域全体の見守りにより、親子が安心して健やかに暮らしている



子どもが夢や目標に向かって個性や能力を伸ばしている



■ 重点テーマ

- 1-1 結婚・妊娠・出産のライフステージごとの切れ目のない支援体制の充実
- 1-2 子どもの成長を見守り、親子の健やかな成長に寄り添うサポート体制の充実
- 1-3 親子の成長に寄り添い支える伴走型支援の強化
- 1-4 生きる力を育む学校教育の推進

ステージ 2

働きがいにあふれ、みんなが選びたくなるまちへ！
「はたらく」のステージ

■ 基本的な考え方

- ・地域産業の魅力を高め、担い手を育てることで、持続的な経済の発展を図ります。
- ・農業・商工業など地元産業の活性化に取り組み、企業誘致や新しいビジネスへの挑戦の後押しをすることで、多様な働く場を生み出します。
- ・やりがいを持って安定して働き続けられる雇用環境を整え、みんなにとって魅力あるまちを目指します。

■ 将来の姿

地域産業の魅力が高まり、活気にあふれている



ライフスタイルや価値観に合った働き方ができている



■ 重点テーマ

- 2-1 産業の魅力を高め、担い手確保と地域経済の発展促進
- 2-2 新しいビジネスの場とチャレンジできる環境の創出
- 2-3 職業の選択肢を増やし、若者が働きがいを感じる職場環境の整備
- 2-4 働きやすい環境を整え、誰もが活躍できる職場環境の整備

この4つのライフステージごとに、目指すべき「将来の姿」を設定し、これを実現するために今後10年間で特に力を入れて取り組む施策を、「重点テーマ」として掲げています。

ステージ 3

心豊かに、いきいき暮らせるまちへ！
「くらす」のステージ

■ 基本的な考え方

- ・誰もが安心して快適に暮らせるよう、道路や除雪、防災などの都市基盤を整え、災害に強く利便性の高いまちをつくります。
- ・医療や福祉の支援体制を充実させ、健康に暮らせる生活環境を整備します。
- ・お互いを尊重しながら、地域の中で自分らしく安心して暮らせるまちを目指します。

■ 将来の姿

安全で快適な環境が整い、ずっと住み続けている



安心していきいきと暮らしている



心豊かに自分らしく暮らしている



■ 重点テーマ

- 3-1 快適で利便性の高い都市基盤の整備
- 3-2 市民の安全・安心を守る体制の強化
- 3-3 適切な医療が受けられるなど、健康的に過ごせる環境整備
- 3-4 個性が尊重され、誰もが安心して暮らせる社会の構築

ステージ 4

誇れる自然と文化、にぎわいあふれる交流のまちへ！
「みがく・つなぐ」のステージ

■ 基本的な考え方

- ・小千谷の豊かな自然や特産品、歴史ある文化をみんなで守り、その魅力をさらに磨き上げる取組を支援します。
- ・地域資源を活かした体験や交流の機会を広げ、魅力を効果的に発信することで、関係人口の創出を図ります。
- ・環境保全活動や文化の継承を支援し、自然と文化を将来につなぐ持続可能なまちを目指します。

■ 将来の姿

誰もが小千谷を好きになり、かわいを持ちたいと思っている



人と人とのつながりや交流により活気があふれ、住みやすいまちになっている



豊かな自然と歴史ある文化に誇りを持ち、次世代に受け継がれている



■ 重点テーマ

- 4-1 地域資源の魅力向上とブランディングの確立
- 4-2 小千谷の魅力が最大限に伝わる効果的な情報発信
- 4-3 多様な交流による新しいつながりの創出
- 4-4 市民参画によるまちづくりの推進
- 4-5 環境負荷の低減、恵まれた自然環境の保全、循環型社会の形成
- 4-6 芸術文化活動や歴史文化の保存・活用の推進

■ 目指すまちの姿を実現するために

1 今、取り組んでいること

みんなの一步で、未来づくり大作戦

市制施行 70 周年を迎えた令和 6（2024）年を「再スタートの年」と位置づけ、人口減少による消滅可能性自治体からの脱却を目標に、「みんなの一步で、未来づくり大作戦」を展開しています。

この作戦は、市民、企業、団体、行政が連携し、それぞれができる範囲で一步を踏み出すこと（ワンアクション）で、まちの活性化につながる好循環を生むことを目指しています。

また、この作戦を推進する仲間として、「未来づくりアンバサダー」を設置しています。アンバサダーは、市内外在住を問わず、小千谷を応援したいという想いを持つ全ての方が登録でき、小千谷の魅力を広く発信するほか、それぞれの知識や経験を活かしてまちづくりに参画しています。

未来づくりアンバサダーをはじめとする、小千谷を想う人々とともに、誰もが笑顔で安心して暮らせるまちの実現に向けて取り組んでいます。

2 みんなで大切にしていきたいこと

おぢやの3つの合言葉

「おぢやの3つの合言葉」は、目指すまちの姿を実現するために、市民、企業、団体、行政が共通して大切にしていきたい考え方を整理したものです。

これらの合言葉は、関わり方や活動の有無にかかわらず、どのような状況にあっても、全ての人が尊重され、安心して暮らせることを前提としています。

一人ひとりの想いはさまざまですが、それぞれの存在や取組が重なり合い、つながること、まちに新たな力と可能性が生まれていきます。

この3つの合言葉を意識しながら、未来の小千谷をとともに育んでいきませんか。

その1

挑

市民、企業、団体、行政が協力して、みんなで 挑戦しよう！

「これをしてみたい」「こんなことができるかもしれない」、そうした前向きな気持ちを大切にしましょう。自分の力だけでは難しいことも、みんなと協力し、互いの知恵と力を合わせれば実現でき、そこに新たな価値と活力が生まれます。「挑戦」が小千谷の未来を切り拓く原動力となります。

→具体的なアクション例

（☺：市民 ☺：企業、団体 ☺：行政）

- ☺ 自分の得意なこと（料理、絵、話し合いなど）を地域の中で活かしてみる
- ☺ 地域のワークショップや意見交換会に参加して、自分の意見を伝えてみる
- ☺ 地域課題の解決につながるサービスや商品づくりに挑戦してみる
- ☺ ボランティア活動や地域行事に参加・協力する
- ☺ 挑戦できる環境を整備し、実現できるよう支援する

その2

援

チャレンジしている人たちを、みんなで 全力応援しよう！

新しい事業を立ち上げる人たちや地域を盛り上げようと尽力する人たちへ、「頑張って！」という応援の気持ちを届けましょう。周りからの温かい声は、挑戦する人たちにとって大きな支えとなります。

互いを認め、支え合う「応援」の気持ちが、まち全体の活性化へとつながります。

→具体的なアクション例

（☺：市民 ☺：企業、団体 ☺：行政）

- ☺ 学校や地域活動で頑張っている友人や知り合いに励ましの言葉を送る
- ☺ 応援したい活動や取組を、家族や友人に紹介してみる
- ☺ 新しい挑戦や活動を協賛・寄付などで支援する
- ☺ 店舗スペースや機材を、イベントや活動の場所として貸し出す
- ☺ 活動に必要な施設・設備の貸出や、安全・手続き面の支援を行う

その3

発信

小千谷の宝を磨き、誇りを持ってみんなで 発信しよう！

小千谷は錦鯉や花火、豊かな自然など、数々の素晴らしい宝に満ちています。かつて先人たちが未来を切り拓いてきたように、今度は私たちがこの宝を再発見し、磨き、未来へつなぐ番です。小千谷の魅力を伝える「発信」が増えるほど、まちに活気と明るさが広がっていきます。

→具体的なアクション例

（☺：市民 ☺：企業、団体 ☺：行政）

- ☺ 地域の観光地や文化財を巡り、小千谷の宝を再発見する
- ☺ 県外の友人を招いて、一緒に観光や地域イベントを楽しむ
- ☺ お気に入りの小千谷の景色や特産品をSNSや口コミで広める
- ☺ 店舗内に小千谷の魅力を紹介するコーナーをつくる
- ☺ 文化財や景観の修復・保全、観光スポットの整備を行う
- ☺ 広報やホームページに特集記事を掲載し、市民や地域の取組を紹介する



関わり方は人それぞれ。
参加する人も、支える人も、見守る人も、
みんなが小千谷を支える大切な力です。



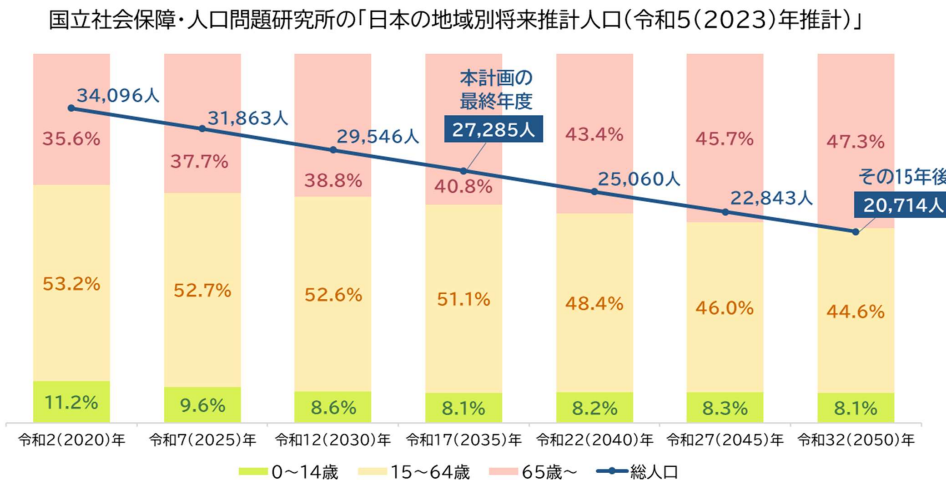
心が動いたときが、あなたのタイミング。
その「やってみよう」が、小さな一歩になります。

■ 目指すまちの姿の実現により、今後も持続するまちへ

平成2（1990）年に43,437人だった小千谷市の人口は、30年後の令和2（2020）年には34,096人まで減少しました。この30年間でおよそ5人に1人が減った計算になります。

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」によると、本計画の最終年度にあたる令和17（2035）年には27,285人に、さらにその15年後の令和32（2050）年には20,714人にまで減少し、今後30年間で約13,000人も人口が減少すると見込まれています。

また、人口構成も大きく変化すると予測されています。令和27（2045）年には、「老年人口」（65歳以上）の割合が、社会を支える働き手である「生産年齢人口」（15歳～64歳）を上回り、令和32年（2050年）には、老年人口が市民全体の47.3%を占めると見込まれています。



令和2（2020）年以降の出生・死亡および転入・転出の動向をみると、転入者数は令和2（2020）年に落ち込んだ後、令和3（2021）年以降は回復の傾向が見られるものの、出生数は減少傾向が続いています。

（単位：人）

	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
出生数	239	231	200	220	228	176	186	171	148	126
死亡数	508	516	525	473	476	491	512	494	518	524
転入者数	723	694	705	605	684	598	651	835	765	741
転出者数	925	851	900	846	988	901	865	863	900	951

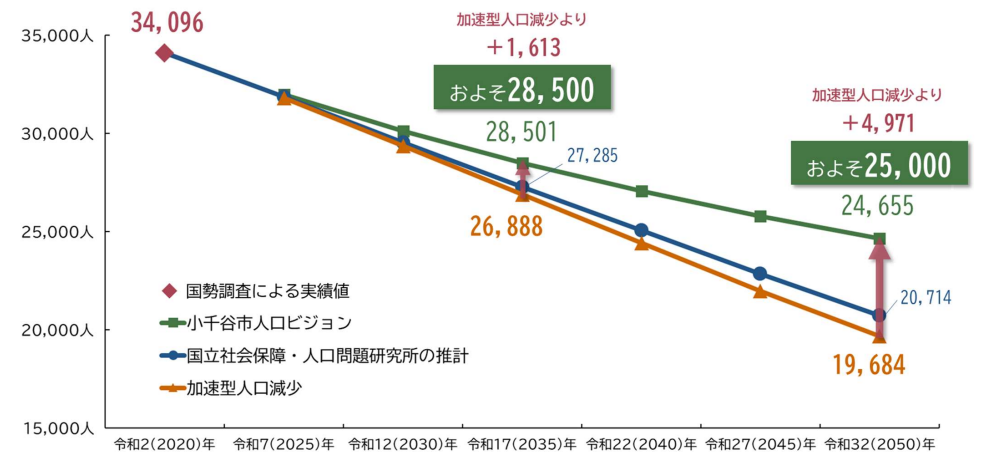
出典：新潟県人口移動調査結果報告

このまま生産年齢人口の減少と少子高齢化が進み続けた場合、国立社会保障・人口問題研究所の推計よりもさらに減少が進むことが想定されます。

本市が独自で推計した「加速型人口減少」パターンでは、令和32（2050）年に20,000人を下回り、老年人口が市民全体の約半数に近い49.8%を占めると見込まれています。

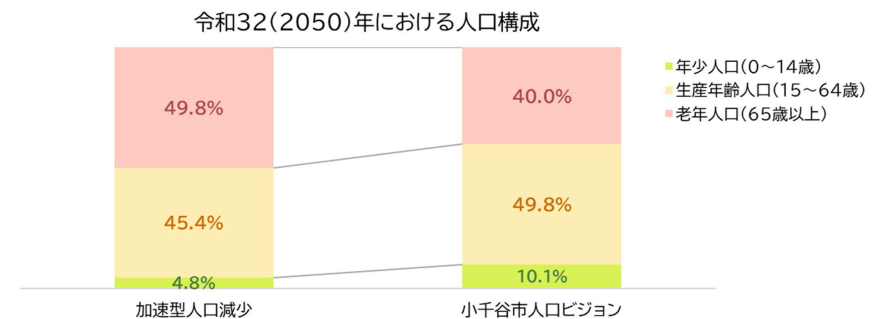
しかし、この予測をただ見ているわけではありません。市民、企業、団体、行政が一体となって、笑顔と希望を育む「おぢやの輪」を未来へつなぐことで、人口の減少幅を最小限に抑えるとともに、人口構成を改善し、持続可能なまちを目指します。

今後の人口の見通しをまとめた「小千谷市人口ビジョン」では、その実現に向けた目標値として、**令和17（2035）年の総人口を28,500人、令和32（2050）年の総人口を25,000人**と定めています。



この目標を達成することで、令和32（2050）年における老年人口の割合は40.0%、生産年齢人口の割合は49.8%となり、働き手の安定的な確保や経済活動の維持、子育てしやすい環境や高齢者を支える仕組みの充実につながると考えています。

➡小千谷市人口ビジョンの詳細については、資料編 p. O～をご確認ください。



【Part 1 「おぢやの想い」 まとめ】

未来のまちの姿

- 誰もが笑顔で希望を持ち、
安心して暮らし続けられる、持続可能なまち
- 令和32（2050）年の小千谷市の人口 25,000人

今後10年間でめざすもの

- 「**笑顔**と**希望**を育む『おぢやの輪』をみんなで未来へつなぐまち」の実現
- 令和17（2035）年の小千谷市の人口 28,500人

